



全国財務局長会議 席上配付資料

- I. 最近の福岡財務支局管内の経済情勢
- II. 企業事例

令和7年11月6日
福岡財務支局

I . 最近の福岡財務支局管内の経済情勢

I. 最近の福岡財務支局管内の経済情勢

	前回（7年7月判断）	今回（7年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある		個人消費は、回復のテンポが緩やかになっている。生産活動は、はん用・生産用機械の生産活動に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。
ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

	前回（7年7月判断）	今回（7年10月判断）	前回比較
個人消費	回復のテンポが緩やかになっている	回復のテンポが緩やかになっている	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	7年度は減少見込み	7年度は減少見込み	
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は減益見込み	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸 出	前年を上回っている	前年を上回っている	

※1. 7年10月判断は、前回7年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

※2. 各項目の詳細については、「全国財務局管内経済情勢報告概要」を参照。

Ⅱ．企業事例

Ⅱ. 企業事例（成長型経済の実現に向けた地域企業の取組）



株式会社 SANMATSU

設立：1972年 本社：福岡県筑紫野市 従業員数：184名（2025年7月）
資本金：8,500万円 売上高：41億円（2025年6月期）
事業内容：金属部品加工、各種機械装置の組み立て及びFA・自動化システム開発

1. これまでの発展

〈創業期〉
葉たばこ乾燥機

- ✓ 設計から組立まで一貫した生産体制が強み
- ✓ しかし、需要期以外は工場が非稼働

他業種への展開

閑散期に、葉たばこ乾燥機の製造技術を応用し製造
い草・しいたけの乾燥機 > 住宅部材 > 携帯電話
通信基地局 など

多品種少量生産

- ✓ 7割が特注の「1点もの」
- ✓ 設計・開発からカバーする「小ロット製造代行サービス」
- ✓ 顧客のニーズに応じてコンサルティングを実施

2. 多品種少量生産を支えるシステム

「多品種少量生産」を実現するためには**厳格な生産管理・自動化**が必要

受注・生産管理システム「SINS」

- ✓ 自社でシステムエンジニアを雇用し1998年より開発に着手した独自システム
- ✓ 受注・出荷処理、発注・受入処理、工程管理等、**全作業を一元管理**
- ✓ 全工程を記録し、工程進捗・生産性を確認



自社工場を2025年完全自動化

- ✓ 生産工程の調整から金属加工、搬送まで自動化
- ✓ 「SINS」、独自の画像認識技術、機械制御システムを利用
他社のロボットやシステムも導入
- ✓ 夜間は完全無人運転（24時間稼働）

➡ 生産能力45%向上

自社の自動化・生産管理のノウハウを活用し、 人手不足が深刻化する協力企業の生産性向上を支援

3. 九州の中小企業との協働

- ✓ 自社だけで対応できない技術や作業量の場合、近隣の140~150社と協働
- ✓ **ロボットSIerとして協力企業等へ自動化システムを外販**

〔本年11月、溶接ロボット・周辺システムを
協力企業に初めて納品する予定〕

ロボットSIer
(システムインテグレーター)



- ☆ 作業工程のデータを収集
- ☆ 自動化による効果を分析
- ☆ 企業ごとにロボット・システムをカスタマイズ

販売



協力企業

生産性向上
人手不足の解消

協力体制強化により成長を加速

2030年 売上目標（2025年比）
・ 金属加工事業 45億円（150%）
・ ロボットSIer関連事業 15億円（120%）



溶接ロボット

協力企業と一体となって成長を目指す

4. 今後の展開

- **100億円宣言**
 - ✓ 2034年までに売上高100億円を目標に掲げる
- **全国・世界で自動化支援を拡大**
 - ✓ 生産能力拡充：M&A含めた工場増設等
 - ✓ 海外展開：海外日系企業の金属加工・装置開発支援



新工場「SID-E7」

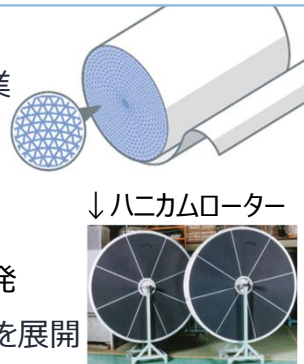
Ⅱ. 企業事例（成長型経済の実現に向けた地域企業の取組）

SEIBU GIKEN 株式会社 西部技研

設立：1965年 本社：福岡県古賀市 従業員数：779名（連結・2024年12月）
資本金：7億1,100万円 売上高：321億円（連結・2024年12月期）
事業内容：デシカント除湿機（注1）やVOC濃縮装置（注2）等の空調機器製造、販売、据付、保守等

1. これまでの発展

- ✓ 企業の委託研究に取り組む大学発ベンチャーとして創業
- ✓ 多様な素材をハニカム（ハチの巣）状に成形し、ガスの吸着材や脱臭剤等の機能を付加する**技術**を**独自開発**
- ✓ ハニカム技術を用い、機器の心臓部となるローターを開発
- ✓ 海外大手企業の下請けではなく、**自社製品**として事業を展開



2. 完成品販売から施工まで

● 完成品販売を開始（2000年頃～）

- ✓ エンドユーザーや工事業者への販売まで担い、ビジネスの**安定性強化・単価向上**を実現



デシカント除湿機

グローバル市場シェア 2 位



VOC濃縮装置

グローバル市場トップシェア

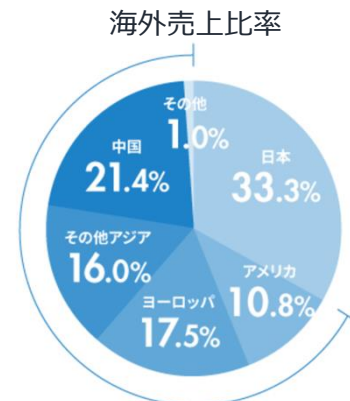
● 施工まで担うソリューション事業を開始（2010年頃～）

- ✓ 成長市場である**リチウムイオン電池・半導体工場向け**に、ドライルームや、清浄度・温度・水分濃度を精密に管理したスーパークリーンルームを展開
- ✓ 2024年、韓国企業と資本提携し、米国等での事業拡大を図る

オンリーワンの技術を武器に最適な空気環境創出を一気通貫で手がけ、海外市場を席巻するグローバルニッチ企業

3. 海外進出

- ✓ 1993年、業務提携先であったスウェーデンの**除湿機メーカーを買収**
- ✓ 以降、アジア・北米・欧州・アフリカに計10社の海外子会社、計6カ所の海外製造拠点を設立
- ✓ 2025年、タイに子会社を設立し、ASEAN、インド、中東等の**新興市場**へアプローチ予定
- ✓ 海外売上高は全体の**約67%**



4. 今後の展開

● 資金調達、優秀な人材の獲得

- ✓ 2023年、東証スタンダード市場へ上場

● 生産能力拡大

- ✓ 2025年、福岡県宗像市に投資額30億円の新工場を設立（うち11億円は「**中堅・中小成長投資補助金**」を活用）
- ✓ 2026年、中国に投資額20億円の新工場を設立

● 研究開発・新製品の発売

- ✓ ハウス栽培向け大気中CO₂濃縮・供給装置を2024年4月販売開始
- ✓ CO₂回収装置や酸素濃縮装置の開発を**産学官連携**で進める



（注1）デシカント除湿機：シリカゲル等の除湿剤（デシカント）を浸透させた除湿ローターに水分を吸着させる方式の除湿機。空気を冷やして水にする冷却式と比べ、低温低湿環境でも効率的に除湿が可能。

（注2）VOC濃縮装置：大気汚染物質である揮発性有機化合物（VOC）をローターに吸着させて排ガスを無害化したり、濃縮された空気を冷却凝縮してVOCを液体として回収したりする装置。

（写真提供：株式会社西部技研）